

『福島県俳人事典』に収録されている川俣の俳人 一覧

本一覧は下記講座の配布資料(講師作成)より抜粋したものです。

講座名: 令和7年度川俣町文化財講座「川俣の俳諧」(令和8年3月14日・川俣町中央公民館開催)

講師: 山田英明氏(公益財団法人福島県文化振興財団歴史資料課・川俣町文化財保護審議会委員)

出典: 矢部梢郎編『福島県俳人事典』1955年 福島県俳人事典刊行会発行

番号	俳号	代表句	時代	居住地ほか
92	稲花軒		文明～元禄	川俣、大久保正次
504	一川	襤褸干す隠居子もあり桃の花	宝永～宝暦	川俣
517	慰言	八景に一鉞おくや今朝の雪	宝永～宝暦	川俣
614	吐玉	国々の花は吉野の出店かな	宝永～宝暦	川俣
661	柳月	寒菊は鉢の留主して肥にけり	宝永～宝暦	川俣
692	温月	ねらへ人の一本かつく鶉かな	宝永～宝暦	川俣
696	和水	みちのくの木の芽日和や三日譽	宝永～宝暦	川俣
795	奚疑	闇かりに打や螢の片男浪	宝永～宝暦	川俣
902	三鳩	はらはらと落る平家の一葉哉	宝永～宝暦	川俣
967	有竹	山彦に誰かをしへしそ田植うた	宝永頃	川俣
1015	志士	暑さかな鱔を逃げても虎の口	宝永～宝暦	川俣
1025	指馬	這過て余所て年寄るふくへ哉	宝永～宝暦	川俣
1094	浅口	かたきにも味は知らせし腹汁	宝永～宝暦	川俣
1120	一枝	花の蔭はなれかたなし老心	明和～文政	川俣
1130	一瓢	手もたるく足もたるしや藤の花	明和～文政	川俣、菅野氏
1137	為師	起るには大き過たる角力かな	明和～文政	川俣
1139	為舟	面かけやしのふの昔石の月	明和～文政	川俣、藤屋與治兵衛
1141	為風	名物の蕎麦はきれたり時鳥	明和～文政	松澤、高橋清蔵
1166	露超	くすほるな麦から焼そ花蕨	明和～文政	川俣
1195	呂人	山空や海空やとて青簾	明和～文政	川俣
1230	梅臥	年はまたそこらに居るに烏哉	明和～文政	川俣
1259	麦由	旅人は笠か家とや鳴く雲雀	明和～文政	川俣
1264	半路	雨踏て来るや花持栗の下	明和～文政	川俣、范蘆(保原)と同一人か
1286	繁里	有明や紅葉に寒き音のする	明和～文政	川俣
1326	保月	草々に摘む手もそみて葱摺	明和～文政	川俣
1347	東舊	山彦の年寄もせぬ砧哉	明和～文政	川俣
1348	東其	見ゆるそや遠沖鳴の朝寒み	明和～文政	川俣
1349	東居	梅か香にまふれて出たり朝の月	明和～文政	川俣
1350	東陌	もの凄くなる迄ききぬはつ蛙	明和～文政	川俣
1351	東雲	白梅の軒を並へて寝たりけり	明和～文政	川俣
1352	東洞	春風に干鰯の匂ひぬけにけり	明和～文政	川俣
1376	兎舟	松蔭の小家しらるる清水かな	明和～文政	川俣
1406	曇無	挨拶のときれ世話しき扇哉	明和～文政	川俣
1425	禱久	坐て届く棚も出来けり冬籠	明和～文政	川俣
1465	朝三	川瀬に火打かけけり網代守	明和～文政	川俣
1489	里月	松よりも土筆に嬉し朝日さす	明和～文政	川俣

1509	緑毛	面白き夜に生れてか飛ふ胡蝶	明和～文政	小綱木、車屋庄助
1517	梁炊	辻籠に我乗て居る寒さ哉	明和～文政	川俣
1525	屢中	影落て池を動かす柳かな	明和～文政	川俣
1545	可笑	松かさの落たもしらす猫の恋	明和～文政	川俣
1546	可国	春雨の跡また白き奥の院	明和～文政	川俣
1547	可龍	涼しさを櫛の齒にひく木曾路哉	明和～文政	川俣
1575	雁四	夕風の力も知るか鴨の腹	明和～文政	川俣
1582	かつみ	霜月や鷄扶持おる浦の寺	明和～文政	川俣、何都美とも
1644	由之	照降のゆかしき頃や稲の花	明和～文政	川俣在関場、菅野廣
1647	大液	霞む日や弱い弓引く橋の番	明和～文政	川俣
1661	澤雉	峯入の翌日を見挙る霞かな	明和～文政	川俣
1673	たまき	麻持し手もとにたちぬ秋の風	明和～文政	福田村羽田、吉田環
1686	素圭	初蛙凡夫の耳にとまりけり	明和～文政	川俣
1687	素鍊	乙鳥や暖簾祝ひのある小見世	明和～文政	川俣
1715	素石		明和～文政	川俣
1743	蒼蘆	春風や田舎の町も町になる	明和～文政	川俣
1782	来之	夕顔や火貰ふて行く相借屋	明和～文政	川俣
1790	藍光	朽木から虫の出て行く春日哉	明和～文政	川俣
1819	雲帯	白梅やたかふ出来たる門の橋	明和～文政	川俣
1835	歌	夕山に日和かたつく紅葉哉	明和～文政	川俣(鶴田)、渡邊東 旧の女
1837	空記	遠蟬や汐にひかるゝ海の草	明和～文政	川俣
1840	野川	雛棚へ置けは淋しや尉と姥	明和～文政	川俣
1843	弥高	送火の消残るかたや冥途道	明和～文政	川俣
1851	真澄		明和～文政	川俣
1882	幻窠		明和～文政	川俣
1936	浮木	借着して寺を出れば鹿の声	明和～文政	川俣
2003	壺山	炎天や蟻のひくほと動く松	明和～文政	川俣、大内傳七
2097	再可	束ねても櫛目の分る芒かな	明和～文政	川俣
2117	其白	聞きなれて聞ねは淋し鹿の声	明和～文政	川俣
2123	亀引	小日向や蝶と子供の遊ふかけ	明和～文政	川俣
2165	九外	これ程の桜に家もなかりけり	明和～文政	川俣
2169	金 = (广に呂)	涼しさを押やる月の戸口哉	明和～文政	川俣
2176	喜元	春雨や丁度に来たる絵絹売	明和～文政	川俣
2211	求外	卯の花や民図帳には外記屋敷	明和～文政	川俣
2221	有素	梅か香や今朝も雀に起された	明和～文政	川俣
2268	如船	砂川の浅瀬はいつこ春の月	明和～文政	川俣
2269	如水	藪入や千々に分るゝ思ひ川	明和～文政	川俣
2270	如桂	雨の桜見る人を見る窓忙し	明和～文政	川俣
2284	春水	青鶯や川を見越しのくねり松	明和～文政	川俣
2305	周甫	文すりや分こす草の茂り茂り	明和～文政	川俣
2343	寿山	夜を深め深めけり五月雨	明和～文政	川俣
2345	志計里	なよ竹の影さす夜也土用明	明和～文政	川俣
2372	菖水		明和～文政	川俣
2378	袖玉	行春の今更白し門の水	明和～文政	川俣

2408	文巴	入相に角も落らん峰の鹿	明和～文政	川俣
2423	昌二	注連かけたやうや勝手の藤の花	明和～文政	川俣
2429	百川	つみ草もあるや利休か旅筆筭	明和～文政	川俣
2437	品側		明和～文政	川俣
2447	門重	布さらず手元も萩の流れ哉	明和～文政	川俣
2466	成羅	陽炎や野笹見とれて眠かち	明和～文政	川俣
2481	千鹿	梅さくや蠟燭たりしまはり椽	明和～文政	川俣
2520	戦栗		明和～文政	小綱木村関場、菅野千代吉
2550	一楽	大空と同じみとりや翁の松	天保～明治	川俣鉄砲町、平澤太
2551	一朗	ちよこめしみとり也けり翁のまつ	天保～明治	川俣、村井氏
2552	一秀	永き日や隣歩行もひと仕事	天保～明治	川俣
2553	一笑	初瓜や子は放さず持歩行	天保～明治	川俣、平澤氏
2633	一牛	日暮れは寒さのもとる小春哉	天保～明治	川俣
2643	一蜀		天保～明治	川俣鉄砲町、酒井徳治郎
2730	六槐	鶯の親しうくるや法の庭	天保～明治	川俣、渡邊弥七、溜屋、翠雲社
2769	梅雅		天保～明治	川俣
2839	白圭	竹の葉のほろりと落つ暮の春	天保～明治	川俣
2878	半侶	伸かちてゆかみの出たり福寿草	天保～明治	川俣、大内氏、半路と
2923	保橋	星月のいく世軽ぬらん翁の松	天保～明治	川俣、大橋氏
2936	宝齋	豆畑や今日の月から手のかゝる	天保～明治	川俣
3238	竹芳	照りしみる月夜の空や啼千鳥	天保～明治	福田村福田羽田、中村平三郎
3313	里楓	一村は山懐ろや冬こもり	天保～明治	川俣鉄砲町、谷崎金兵衛
3354	柳女	朝日さす松の操や千代の影	天保～明治	川俣
3355	柳雪	鶴亀によはひ結むや翁の松	天保～明治	川俣鉄砲町、涌井金太郎
3356	柳水	松葉かく老の姿や若みとり	天保～明治	川俣中町、富樫定二
3385	柳翠		天保～明治	福田村秋山、佐藤源兵衛
3441	応居	岩か根や汐の干残る窪溜り	天保～明治	川俣
3443	応歌	梅ちるや丸くはあれと薄月夜	天保～明治	福田村羽田、中村庄蔵、濫月庵
3528	花岳	川一つ隔てて霞む小家かな	天保～明治	川俣
3585	霞曉	黄金なる色や翁の松の花	天保～明治	川俣鉄砲町、山田桂
3663	関生		天保～明治	川俣、佐藤氏
3689	巖幽	浦海に鳥も羽をのす小春哉	天保～明治	川俣、岩城氏
3755	大車	黄鳥よ其一声も水の泡	天保～明治	川俣
3756	大洞	来たかひもなく鶯のいにゝけり	天保～明治	川俣
3837	蓮史		天保～明治	福田村、佐藤喜一郎
3845	素煉	梅さくや薺よこるゝ砂けふり	天保～明治	川俣
3889	双亀	眼に障るものなき雪の月夜哉	天保～明治	福田村羽田、佐藤孝之助
3914	桑山	名に薫る翁の松や若みとり	天保～明治	川俣、五十嵐氏
3915	桑月	日のめくるだけは薫や稲の花	天保～明治	川俣、渡邊弥一郎、真風舎
3975	栄歳	真直にあさ日の筋や梅の花	天保～明治	福田村、蓮沼三右衛
4174	玄外	落椿起せは蜂の出てにけり	天保～明治	川俣、森氏、如来庵

4240	物外	翁とは松の位やいく千年	天保～明治	川俣、谷崎氏
4244	文雅	花に出てわすれすの山越にけり	天保～明治	川俣
4249	文彦	さし込んだ影は梅なり月の窓	天保～明治	川俣、酒井文彦、桃井園
4324	梧窓	麗かや流の底に富士の影	天保～明治	川俣、氏家傳
4328	梧通	武蔵野に揚て名を得る雲雀哉	天保～明治	川俣
4392	高直	限りなくしける緑や翁の松	天保～明治	川俣
4399	構居	三十三歳今朝も翁のまつ掃除	天保～明治	川俣
4427	永楽	昇る日に千代の影あり翁の松	天保～明治	川俣、菅野八郎兵衛
4506	蛙水	宵闇の紛らはしさよ花さかり	天保～明治	川俣
4509	愛雪		天保～明治	福田村羽田、佐藤賢
4592	さと女		天保～明治	川俣、酒井氏
4660	其雪	たまはりし翁の名こそ松の花	天保～明治	川俣、氏家氏
4697	箕笠	飛へはとひ止まれはとまる蝶の影	天保～明治	川俣、箕田弥次兵衛
4743	九竹	九重の庭に薫るや松の花	天保～明治	川俣
4744	九畦	鶯や幾谷こえてけさの声	天保～明治	川俣
4766	虚舟	高く香の御代に立ちけり松の花	天保～明治	川俣、荒川英信
4796	旭樓	世に高くすむや翁の松の声	天保～明治	川俣
4797	旭翠	蓬萊に深きねさしや翁の松	天保～明治	川俣
4853	琴阿	時鳥わひ茶の庭の散松葉	天保～明治	川俣、釋氏
4862	錦秋		天保～明治	川俣鉄砲町、岸野氏
4916	雄山	雲を出て照るや翁の松の月	天保～明治	川俣、佐藤氏
5053	穴庄	国の名も廣く翁や松の花	天保～明治	川俣
5177	如扇	花の雲夜は面影の胸にうく	天保～明治	川俣
5179	如髮	海棠や夜の雨に朝の色	天保～明治	川俣(松澤)
5186	如風	天の戸の奇麗にあけて初日の出	天保～明治	川俣鉄砲町、菅野廣造、蓬萊舎
5384	修竹		天保～明治	福田村羽田、佐藤氏
5429	黙巢	梅一木見てから長し家中村	天保～明治	川俣
5457	青齋	末廣く吹くや翁の松の風	天保～明治	川俣、石田又兵衛
5461	青氈	梅咲くや門に古ひし施薬札	天保～明治	川俣
5474	青々	積る雪早瀬の音もたるみけり	天保～明治	伊達(福田?)、金子
5475	青松		天保～明治	福田村、作田藤十郎
5545	静月	雪上まで緑立ちけり翁の松	天保～明治	川俣、安齋氏
5629	扇児子		天保～明治	川俣、菅野與右衛門
5680	翠谷		天保～明治	川俣、真島氏
5704	梅枝		明治中期	福田村秋山、蓮沼惣
5707	梅月		明治中期	福田村羽田、佐藤平治郎
5735	知徳		明治中期	川俣中町、渡邊氏
5762	霞夕		明治中期	川俣本町、鈴木良助
5773	翠紫		明治中期	福田村羽田、佐藤清
5776	たか女		明治中期	川俣鉄砲町、大久保
5819	好之		明治中期	福田村秋山、佐藤源
5827	鴻橋		明治中期	川俣中町、大橋氏
5848	旭城		明治中期	川俣中町、菅野氏
5870	松英		明治中期	川俣荒町、安齋氏
5871	松翠		明治中期	川俣中町、氏家又治
5888	しげり	山吹の有明寒き都かな	文政頃	川俣

5911	雪周		明治中期	川俣本町、武藤氏
6022	露暁		明治初期	川俣
6023	露夕		明治初期	川俣
6122	白馬	盃に向へば蘭の香をまして	寛保	川又
6177	梅月	若水の桶杉にほふ朝日哉	不明	川俣、赤澤倉吉
6243	北雷	悠々たり馬上の村医蚊喰鳥	不明	川俣、宮路儀助
6286	東精		明治初期	川俣
6359	童羊	安宿に布團干す日や長閑なる	明治	川俣、小林作馬
6368	知裡	川除にかき込まれても柳かな	寛政	松沢
6805	淡溪	古墳掘る人足共に椿咲く	不明	川俣、遠藤市四郎
6820	素鳥	ころ合の有て鳴き止む蛙かな	嘉永	川俣
6914	蘭舟	星しばし残りて氷る山田哉	天保	川俣
6973	雲周		明治初期	川俣
7000	延子	吹消た様な折ありなくかはず	嘉永頃	川俣
7019	空記	行空もはや七とせや梅かおる	嘉永	川俣
7119	文角	祭礼の屋台も清しけふの月	寛保	川俣
7172	富山		明治前期	川俣
7417	己山	若竹や風に習はむ枝くばり	寛延	川俣
7497	九畦	鶯やいく谷越て今朝の声	嘉永	川俣
7567	机友	首たてゝ鶉の逆のぼる早瀬哉	不明	川俣、高橋庄蔵
7862	如風		明治初期	川俣
7895	秀水	寝やらぬや螢所の草の月	天保	川俣
8040	青々		明治初期	川俣